

ジャン・クロード・レーベンシュテイン教授来日記念シンポジウム

—フランス近現代美術史研究の可能性—

日時：9月5日（土）9:20am~5:40pm

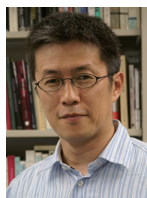
場所：京都工芸繊維大学松ヶ崎キャンパス西部構内1号館3階大学院会議室



J.-C. Lebensztejn



S. Inaga



M. Hayashi



A. Okabe



A. Takahashi



N. Yoshida



K. Miyazaki



T. Nagai

コンセプト：フランス近現代美術史研究の可能性を様々な角度から提案・議論し、未来の研究の方向性を模索する。

主催：京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科造形工学部門

後援：美術史学会、日仏美術学会、イメージ&ジェンダー研究会

協賛：京都工芸繊維大学国際交流センター

座長：稲賀繁美（国際日本文化研究センター教授）

司会進行：永井隆則（京都工芸繊維大学准教授）

使用言語：日本語

聴講無料、予約不要

9:20~9:30 シンポジウム概要説明（永井）、座長挨拶

9:30~11:00 基調講演：文献学、「セザンヌの夢」（逐次通訳付き）
ジャン・クロード・レーベンシュテイン（パリ第1大学名誉教授）

11:00~11:30 質疑応答（司会：永井）

11:30~12:05 精神分析、「美術史と精神分析—「文献学」的眼差しの効用について」
林道郎（上智大学教授）

12:05~12:15 質疑応答（司会：永井）

12:15~13:15 昼食休憩

13:15~13:50 ジェンダー、「Elles - フランスの女性アーティストとフェミニズム」
岡部あおみ（武蔵野美術大学教授）

13:50~14:00 質疑応答（司会：永井）

14:00~14:35 美術館、「美術館とフランス近代美術史研究」
高橋明也（三菱一号館美術館館長）

14:35~14:45 質疑応答（司会：永井）

14:45~15:00 休憩

15:00~15:35 文学、「ゾラの美術批評・小説から見るフランス近代絵画」
吉田典子（神戸大学教授）

15:35~15:45 質疑応答（司会：稲賀）

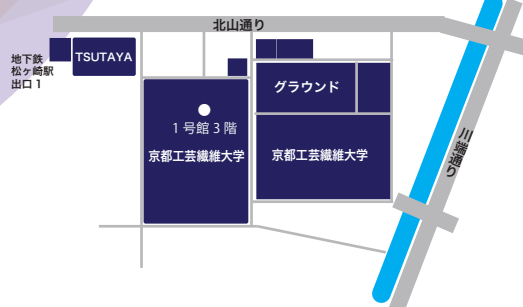
15:45~16:20 ジャポニスム、「空間」をめぐるジャポニスム」
宮崎克己（美術史家）

16:20~16:30 質疑応答（司会：稲賀）

16:40~17:30 全体討議（座長：稲賀）（和仏通訳付き）

17:30~17:40 閉幕挨拶

《京都工芸繊維大学 MAP》



講師紹介

座長 稲賀繁美 (INAGA Shigemi)

国際日本文化研究センター教授：

1957年生まれ。東京大学教養学部・同大学院、パリ第七大学に学ぶ。文学博士(パリ第七大学)。三重大学助教授を経て、現職。専門は比較文学・文化、文化交流史。主著に『絵画の黄昏』(名古屋大学出版会、1997)、『絵画の東方』(同、1999)。

林道郎 (HAYASHI Michio)

上智大学国際教養学部教授：

1959年函館生まれ。1999年コロンビア大学博士号取得。2006年より現職。専門は西洋美術史および美術批評。主な著作に『絵画は二度死ぬ、あるいは死なない』(全7冊)、「零度の絵画—RRの呟き」(ロバート・ライマン展、2004年)、「光跡に目を澄まして—宮本隆司論」(宮本隆司写真展、2004年)、「演劇性(劇場性)をめぐる」(『Saison Art Program Journal』7号、2001年)など。『アジアのキュビズム』展(東京国立近代美術館、2005年)にはキュレーターとして参加。

高橋 明也 (TAKAHASHI Akiya)

三菱一号館美術館館長：

1953年東京生まれ。1980年東京藝術大学大学院修士課程修了。フランス近代美術史専攻。1980年国立西洋美術館研究官。1984-86年文化省在外研究員としてパリ・オルセー美術館開館準備室に在籍。国立西洋美術館主任研究官・学芸課長を経て、現在、2010年開館予定の三菱一号館美術館館長。「ドラクロワとフランス・ロマン主義」(1989年)、「バーンズ・コレクション」「1874年—パリ第1回印象派展」とその時代(1994年)、「ジョルジュ・ド・ラ・トゥール」(2005年)、3度の「オルセー美術館展」(1996年、1999年、2006年)、「コロ—光と追憶の変奏曲」(2008年)などの展覧会を企画・開催。著書に『マネ』、『ドラクロワ 色彩の饗宴』、『ゴーガン—野生の幻影を追い求めた芸術家の魂』ほか、共著に『フランス発見の旅』等がある。

宮崎 克己 (MIYAZAKI Katsumi)

美術史家：

1952年、埼玉県生まれ。東京大学、同大学院、パリ第4大学大学院などで美術史を学ぶ。群馬県立近代美術館学芸課主任、石橋財団ブリヂストン美術館学芸課長、同副館長などを歴任。専門は、フランス近代絵画史、日本と西洋の美術を中心とした文化交流史。企画した展覧会に「マネ展」(1994)、「ルノワール展」(2001)、著書に『西洋絵画の到来』(2007、ジャポニスム学会賞)など。

Jean-Claude LEBENSZTEJN(ジャン・クロード・レーベンシュテイン)

パリ第1大学名誉教授：

1942年生まれ。1963-67年、エコール・ノルマル・シューペリール。1969-84年、パリ第10大学教授。1984年、パリ第1大学国家博士。1985年、パリ第1大学教授。2002年、同退官 同名教授。Zigzag, Flammarion, 1981。Chahut, Hazan, 1989。L'art de la tache. Introduction à la Nouvelle méthode d' Alexandre Cozens, édition du Limon, 1990。Annexes, de l' oeuvres d' art, La Part de l' oeil, 1999(三浦篤監訳 三元社近刊)、Etudes cézanniennes, Flammarion, 2006(浅野春男訳、三元社、近刊)

岡部あおみ (OKABE Aomi)

美術評論家、武蔵野美術大学芸術文化学科教授：

国際基督教大学卒業後、パリ・ソルボンヌ大学修士課程、ルーヴル学院第三課程修了。パリ国立美術学校、ニューヨーク大学客員研究員。専門は現代美術、美術館学、文化政策研究。『アートと女性と映像』(著書)、『アートが知りたい 本音のミュージオロジー』(編著)など。映像制作：『田中敦子 もうひとつの具体』(監督作品)。webインタビュー・アーカイブ運営：Culture Power (<http://apm.musabi.ac.jp/imsc/cp/>)

吉田典子 (YOSHIDA Noriko)

神戸大学大学院国際文化学研究所教授：

京都大学大学院文学研究科博士課程修了。専門は19世紀フランスの文学と絵画・社会文化史。共著に、『身体のフランス文学』(京都大学学術出版会)、Zola à l'oeuvre (Presses Universitaires de Strasbourg) ほか。論文に、『ゾラ『パリの胃袋』とマネの静物画』(『日仏美術学会会報』)ほか。翻訳書に、ダニエル・アラス『モナリザの秘密—絵画をめぐる25章』(白水社)、ゾラ『ボヌール・デ・ダム百貨店』(藤原書店)、バルザック『金融小説名篇集』(共訳、藤原書店)、ポミアン『コレクション』(共訳、平凡社)ほか。

司会 永井隆則 (NAGAI Takanori)

京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科准教授：

1956年生。文学士(京都大学文学部美学美術史学科)、文学修士、文学博士(京都大学大学院文学研究科)、Diplôme d'études approfondies (プロヴァンス大学大学院博士後期課程 [歴史と文明;美術史]、エクス・アン・プロヴァンス、フランス共和国)。京都国立近代美術館主任研究官を経て、現職。専攻はフランス近代美術史。主著に、『越境する造形—近代の美術とデザインの十字路』(編著) 晃洋書房、2003年、『モダン・アート論再考—制作の論理から』思文閣出版、2004年、『セザンヌ受容の研究』中央公論美術出版、2007年、『フランス近代美術史の現在』(共著) 三元社、2007年。

会場：京都工芸繊維大学 松ヶ崎キャンパス 西部構内 1号館 3階大学院会議室

アクセス

1. 京都駅より

市営地下鉄烏丸線「国際会館」行きに乗車(約18分)「松ヶ崎駅」下車、徒歩約8分(「松ヶ崎駅」の「出口1」から右(東)へ約400m、四つ目の信号を右(南)へ約180m)

2. 京阪三条駅より

市営地下鉄東西線「太秦天神川」行きに乗車、「烏丸御池駅」で地下鉄烏丸線・国際会館行きに乗り換え、「松ヶ崎駅」下車、徒歩約8分(「松ヶ崎駅」の「出口1」から右(東)へ約400m、四つ目の信号を右(南)へ約180m)

アクセスマップ

http://www.kit.ac.jp/01/01_110000.html <http://www.kit.ac.jp/02/matugasaki.html>

キャンパスマップ

<http://www.kit.ac.jp/01/gakunaimap/matugasaki.html>